

「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業構想〈小・道徳〉

特別研修員 道徳 古塩 篤志（小学校教諭）

主題名 かけがえのない命
内容項目 D-(18) 生命の尊さ
教材名 『大切なものは何ですか』

主題名 苦しくても
内容項目 A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志
教材名 『字を書きたい～星野富弘～』

授業改善の視点

ペアでお互いの意見を発表し合い、相手の考えを全体場で発表する活動を通して、多面的・多角的な考えに触れることで、深い学びにつながるようにする。

授業改善の視点

登場人物や自分の気持ちを心情メーターに表して可視化することを通して、児童それぞれが気持ちの変化に気づき、自分事として深い学びにつながるようにする。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問）

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○「あなたの一番大切なもの」と言われて、どのようなものを思い浮かべますか。

道徳的諸価値についての理解を深めるために

・「あなたの大切なものは何ですか」という問いに対して、児童の意見と物語に出てくる虫たちの考えを照らし合わせながら、命の大切さについて気付かせる。

命を大切にすることについて、考えを深めよう。

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○苦しいことや辛いことをするときの、あなたの気持ちを心情メーターの上段に表しましょう。

道徳的諸価値についての理解を深めるために

・児童が体験した苦しいことや辛いことについてのアンケートを基に、そのときの自分の気持ちを心情メーターに示してから、富弘さんの心情を考えさせる。

苦しいことや辛いことを乗り越えるためには、どんな心が大切なのでしょう。

展開

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

○「大切なものは何ですか」と質問したセミはみんなの話聞き、どのようなことを考えていたと思いますか。

◎どうして私たちは命を大切にするのでしょうか。



<板書例>

物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

・モンシロチョウの母の気持ちや命を大切にすることについて考える場面では、児童に理由を問い返して、より深く命について考えられるようにする。
 ・児童が自分の言葉で発表できるように、考える時間を確保し、命を大切にすることについて、じっくりと考えさせる。

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

○歯を食いしぼり、歯ぐきから血を出しながら字を書こうとしているときの富弘さんの気持ちを考えましょう。



<ペア学習の様子>



<主人公の気持ちを色で表す>

◎どのような心があれば、苦しいことや辛いことを乗り越えられるでしょう。

物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

・場面ごとの富弘さんの気持ちを色で表して可視化することで、気持ちの変化を捉えやすくする。
 ・ペアや全体での交流活動によって、より深く考えることができるようにする。

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○今日の授業でどのようなことを学びましたか。

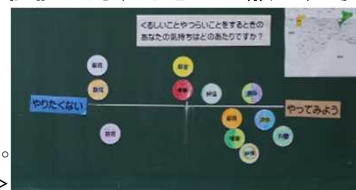
自己の生き方についての考えを深めるために

・終末では、自分の命も友達や家族の命も大切にしながら生きていくことについて、具体的に考えさせ、道徳ノートに書かせる。

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○あなたの今の気持ちを心情メーターの下段に表し、上下を見比べて理由を発表しましょう。

<心情メーターの変化の様子>



自己の生き方についての考えを深めるために

・終末では、本時における児童の気持ちの変化を、導入時の心情メーターと比較させることで、自己を振り返り、粘り強くやり抜こうとする心情を育てていく。

道徳科学習指導案

平成30年10月 第3学年 指導者 古塩 篤志

1 主題名 苦しくても 内容項目A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志

2 教材名 「字を書きたい～星野富弘～」(出典：道徳郷土資料集「ぐんまの道徳」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

現在の環境では、子供たちの興味・関心を引く事柄があふれていることから、自分の目標や夢に向かって努力しようとする気持ちを維持することが困難になってきている。また、辛いことや苦しいことを乗り越えて目標を達成することに対しても、諦めがちになってしまうこともある。このような現状からも自分の生活を振り返らせながら、自分でやろうと決めたことに続けて取り組むことの大切さに気付かせ、目標に向かって強い意志をもち、粘り強くやり抜こうとする態度を育てることが大切である。

(2) 児童の実態について

これまでに、児童は「自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと」について学習してきており、自分のやるべきことに対しては、継続して取り組めるようになってきている。

また、この時期の児童は、興味・関心の範囲が広がり、自分の好きなことなら、目標や計画を立てて取り組むことができるようになってきている。好きなことの中から、自分の夢を意識し始めている児童もいる。しかし、辛いことや苦しいことがあると、簡単に投げ出してしまったり、継続できそうにないとすぐに夢を諦めてしまったりすることもある。そこで、自分の目標に向かって、努力を続けることのすばらしさを感じさせ、粘り強くやり抜こうとする態度を育てたい。

(3) 教材について

群馬県出身の星野富弘さんが口で字を書くきっかけとなった話である。ある日、富弘さんは入院中に出会った中学生の男の子の母から、白い帽子に寄せ書きを書いてほしいと頼まれる。大げがをして首から下が動かせない富弘さんは口にサインペンをくわえて字を書こうとする。しかし、自分一人では書くことができなかった。母に帽子を動かしてもらうことで、名前を一文字だけ書くことができた。その字を見た男の子から「感激した」と電話があり、富弘さんは「自分で書いた」と言ってしまう。その後、言ったことを少しでも本当にしようと、富弘さんはずっと努力し続け、字だけでなく絵や詩もかけるようになった。このような富弘さんの姿を通して、あきらめずに強い意志をもち、粘り強くやり遂げることについて考えを深めることができる教材である。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつために

・児童の辛いことや辛いことについてのアンケートを基に、そのときの自分の気持ちを想起させて心情メーターに示してから、富弘さんの心情を考えさせていく。

○中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

・場面ごとの富弘さんの気持ちを赤と青の色で可視化することで、気持ちの変化を捉えやすくし、ペアや全体での交流活動によって深く考えることができるようにする。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

・終末の振り返りでは、本時における児童の気持ちの変化を、導入時の心情メーターを使って、教師が問い返しをしながら、努力することの大切さや粘り強くやり抜こうとする心情を育てていく。

5 本時の展開

(1) ねらい

手足の自由を失ってもあきらめずに文字を書こうとする星野富弘さんの心情を話し合うことを通して、自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜こうとする態度を育てる。

(2) 準備

教師：「ぐんまの道徳」、ネームプレート（各自2枚）、心情メーター、赤と青の色シート、挿し絵、アンケート結果、発問用紙（掲示用）

(3) 展開

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。</p> <p>○苦しいことや辛いことをするときの、あなたの気持ちを心情メーターに表しましょう。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・やってみようと思う気持ちはあるけど、やりたくないという気持ちの方が強い。 ・やりたくないけど、とりあえずやってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「あなたにとって苦しいことや辛いことは何ですか？」というアンケートを事前に取り、導入で共有させる。 ●アンケートのことに取り組む時の自分の気持ちについて、心情メーターを利用して可視化し、問題意識をもたせる。
<p>苦しいことや辛いことを乗り越えるためには、どんな心が大切なのでしょう。</p>			
<p>2 中心的な教材で、本時で扱う道徳的価値を追求する。</p> <p>○ポツンと小さな点だけしか書けなかったときの富弘さんの気持ちは何色でしょう。</p> <p>○歯をくいしばり、歯ぐきから血を出しながら字を書こうとしているときの富弘さんの気持ちを考えましょう。</p> <p>○目の前がパアッと明るくなったときの富弘さんの気持ちは何色でしょう。</p>	<p>5分</p> <p>15分</p>	<p><u>青の気持ち(ネガティブ)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・点しか書けないなんてくやしい。 ・一生このままなのか。 <p><u>赤の気持ち(ポジティブ)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつかは頑張って、字を書きたい。 <p><u>青の気持ち</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・悔しいな。 ・どうしたらいいのだろう。 ・ずっとこのままだったらどうしよう。 <p><u>赤の気持ち</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう少しで字が書けそう、がんばろう。 ・諦めたくない。 ・絶対に書けるようになりたい。 <p><u>赤の気持ち</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にも字を書くことができるんだ。 ・諦めなくてよかった。 ・これからもっと練習していこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●物語を読む前に、富弘さんの絵と詩を黒板に提示し、首から下が動かせないのに、どうやって絵や字がかけるのか、興味をもたせる。 ●群馬県出身の人物であることを伝え、富弘さんをより身近な存在として感じさせ、学習への関心をもたせる。 ●ペアになって、富弘さんの気持ちを赤(ポジティブ)と青(ネガティブ)の色で表現させ、その理由も考えさせる。 ●それぞれのペアの考えを全体の場で発表させ、色で表現したものから対話の場へとつなげていく。 ●文字が書けない富弘さんの悔しい思いや努力しても無理かもしれないという思い、文字を書きたいという思いの中でゆれ動く心に共感させる。 ●富弘さんの嬉しい気持ちを共有したところで、次の発問へとつなげていく。
<p>○富弘さんが青い気持ちから赤い気持ちに変化することができたのは、なぜでしょう。</p> <p>◎どのような心があれば、苦しいことや辛いことを乗り越えられるでしょうか。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・辛くても、あきらめずにがんばる心があったから。 ・努力し続ける勇気があったから。 ・目標を達成するまで、やり続ける心。 ・やり抜く心。 	<ul style="list-style-type: none"> ●富弘さんのハートが、なぜ赤に変わったのかについて考えさせ、どんな気持ちが大変なのかを個々に発表させる。 ●富弘さんの気持ちの根底にあるものを考えさせることにより、道徳的価値に迫っていく。
<p>3 本時の振り返りをする。</p> <p>○今の気持ちを心情メーターに表し、上下を見比べて理由を発表しましょう。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・富弘さんの諦めずに頑張る姿から、僕も頑張ろうと思いました。 ・富弘さんはすごいなと思いました。私も苦しいことでもやってみようと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●心情メーターの上下に貼ったネームプレートの変化の理由を発表させ、児童自身の心の変化を振り返りさせる。 ●群馬県出身の富弘さんの素晴らしさについて触れることにより、自分も頑張ろうという気持ちをもたせる。

(4) 評価の視点

- 富弘さんが絵や詩をかけるまで頑張れたことの原因を考えることで、努力や強い意志について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- 富弘さんの心の変化を考えることで、努力や強い意志について、自分自身との関わりの中で深めているか。

指導例：主題名 苦しくても 内容項目 A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志

教材名『字を書きたい～星野富弘～』（ぐんまの道徳）第3・4学年

ねらい：手足の自由を失ってもあきらめずに文字を書こうとする星野富弘さんの心情を話し合うことを通して、自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜こうとする態度を育てる。

過程

主な学習活動 (○発問 ◎中心発問 ◇問い返し)

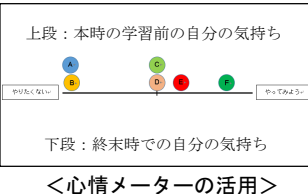
指導のポイント

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○苦しいことや辛いことをするときのあなたの気持ちを心情メーターに表しましょう。

S：やってみようと思う気持ちはあるけど、やりたくないという気持ちの方が強いから。
S：やりたくないけど、とりあえずやってみる。



苦しいことや辛いことを乗り越えるためには、どんな心が大切なのでしょう。

問題意識

- 「苦しいことや辛いことは何ですか？」というアンケートを事前に取り、導入で共有させる。
- アンケートのことに取り組むときの自分の気持ちについて、心情メーターを利用して可視化し、問題意識をもたせる。

展開

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

○ポツンと小さな点だけしか書けなかったときの富弘さんの気持ちは何色でしょう。

S：青色だと思います。
S：このまま、ずっと字が書けないかも知れないし、悔しいからです。
T：赤の気持ちはどんな気持ちですか。
S：いつかは、字が書けるようになりたいという気持ちです。

○歯を食いしぼり、歯ぐきから血を出しながら字を書こうとしているときの富弘さんの気持ちを考えましょう。

S：赤は、字が書けるように頑張ろうという気持ちです。
S：綺麗な字を書きたいという気持ちだと思います。
S：今は書けないけど、いつかは書けるようになろうという気持ちです。
S：青は、歯ぐきから血が出て苦しいから、もうやめたいという気持ちです。
S：高久君にウソをついて悪いことをしてしまったという気持ちもあります。
S：やっぱり、このまま字が書けないのかなという気持ちです。

○目の前がバアーンと明るくなったときに富弘さんの気持ちは何色でしょう。
S：字が書けて、嬉しいから赤色だと思います。 <板書例>



○富弘さんが青い気持ちから赤い気持ちに変化することができたのは、なぜでしょうか。

S：頑張る心があったからだと思います。
◇頑張るためには、どのような心があればいいと思いますか。
S：勇気です。 S：やってみようとする心です。

◎どのような心があれば、苦しいことや辛いことを乗り越えられるでしょう。

S：目標を達成するまでやり続ける心があれば乗り越えられます。
S：やり抜く心だと思います。
◇なぜ、富弘さんは、やり続けられたのでしょうか。

地域の人的
又は物的な資源の活用

- 群馬県出身の人物を取り上げることによって、富弘さんをより身近な存在として感じさせ、学習への関心をもたせる。

協働や対話の場

- ペアになって、富弘さんの気持ちを赤（ポジティブ）と青（ネガティブ）の色で表し、その理由を児童に考えさせる。
- それぞれのペアの考えを全体の場で発表させ、色で表現したものを対話の場へとつなげていく。

中心発問

- 富弘さんの気持ちの変化の色で表し、根底にあるものを考えさせることにより、道徳的価値に迫っていく。

問い返し(◇)

- 児童の発言内容が曖昧なところについては、問い返しをすることにより、考えをさらに深めさせていく。
- 「○○君の意見を聞いて、どのように思いますか」などの問い返しをして、児童の意見を他の児童にも広げていく。

振り返り

- 心情メーターの上下で、授業の最初と最後を見比べて、児童の心の変化を可視化する。
- 群馬県出身の富弘さんの素晴らしさについて触れることにより、自分も頑張ろうという気持ちをもたせる。

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○今の気持ちを心情メーターに表し、上下を見比べて理由を発表しましょう。
S：首から下が動かないのに頑張っている富弘さんの話を聞いて、僕も頑張ろうと思いました。
S：富弘さんのことを尊敬しました。だから、私は苦しいことでもやってみようと思います。
T：富弘さんの素晴らしさを知って、みんなが少しでもやってみようという気持ちになってくれると嬉しいです。

評価の視点

- ・富弘さんが絵や詩を描けるまで頑張れたことについての理由を考えることで、努力や強い意志について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・富弘さんの心の変化を考えることで、努力や強い意志について、自分自身との関わりの中で深めているか。